

乙 第 号

九鬼 一隆 学位請求論文

審 查 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	矢野 寿一
論文審査担当者	委員	病院教授	笠原 敬
	委員(指導教員)	准教授	牧之段 学

主論文

Effects of contact with COVID-19 patients on the mental health of workers in a psychiatric hospital

COVID-19 患者との接触が精神科病院職員に与えた影響

Kazutaka Kuki, Yasunari Yamaguchi, Manabu Makinodan, Masato Honda, Junya

Ueda, Kosuke Okazaki, Kazuya Okamura, Sohei Kimoto, Toshifumi Kishimoto.

Psychiatry Clin Neurosci. 2021 Feb;75(2):67-69

論文審査の要旨

2019年に発生したCOVID-19は、市中感染のみならず、医療施設におけるアウトブレイクも報告されている。本研究は、COVID-19の院内感染が発生した精神科病院における職員のメンタルヘルスへの影響について検討を行ったものである。精神科病院に勤務する多職種で構成される職員426名を対象とし、質問紙票による評価、GAD-7とPHQ-9により不安症状と抑うつ症状の評価から関連因子の分析を行った。不安と抑うつ程度は、COVID-19患者と濃厚接触し自宅待機を指示された職員の方がそうでない職員よりも重度であった。濃厚接触者かつ自宅待機を指示された群のうち、同居者がいる職員はいない職員よりも不安と抑うつ程度が有意に重度であった。重回帰分析では、COVID-19患者への濃厚接触と女性であることは不安と抑うつを両方を悪化させたが、同居者の有無は不安のみを悪化させた。また、COVID-19病棟への配置換えは不安や抑うつ程度に影響を及ぼさなかった。以上の解析により、精神科単科病院におけるCOVID-19クラスター下では不安や抑うつを悪化させるリスク因子として、COVID-19患者への濃厚接触、女性、同居者の存在の3つが挙げられ、これらの条件を満たす職員の精神衛生管理の必要性が示された。

公聴会においては、今後の流行が長引くと違った精神的問題が生じる可能性があるがどう対応するのか、なぜ女性の方が不安と抑うつが強いのかといった質問がなされたが、適切かつ的確に回答した。本研究は精神科単科病院COVID-19クラスターに随伴するメンタルヘルスを評価した初めての報告であり、昨今解決すべき重要課題の一つである就労者のメンタルヘルス向上に大きく貢献し、また、臨床精神医学の発展にも寄与するものと評価される。参考論文と合わせて学位を授与するに相応しい研究と考える。

参 考 論 文

1. A retrospective study of factors associated with persistent delirium

Goto H, Yamauchi T, Okumura K, Matsuoka K, Toritsuka M, Yasuno F, Uemura H, Kuki K, Makinodan M, Kishimoto T. Psychogeriatrics. 2021 Mar;21(2):193-200.

2. 自殺および自殺未遂の遺伝子解析研究

小森 崇史, 岡村 和哉, 池原 実伸, 西川 章代, 土居 史磨, 九鬼 一隆, 岸本 年史. 臨床精神医学 50 卷 6 号 Page567-575(2021.06)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに精神医学行動神経科学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和3年12月14日

学位審査委員長

微生物学

教授 矢野 寿一

学位審査委員

感染症制御医学

病院教授 笠原 敬

学位審査委員(指導教員)

精神医学行動神経科学

准教授 牧之段 学